## 「オプス・デイの重 みと神様の力」

ハビエル神父との対談は二時 間半に及んだ。インタビュー をしたとき、ハビエル神父は まだ属人区長(プレラートゥ ス)に選ばれてはいなかった が、この記事が世に出る頃に はそうなっているだろう。エ チェバリーア神父は、表情を ほとんど変えずに話す。動作 や身ぶりにも地味である。そ の性格や率先力、力や熱情を 内に秘めている。会談中、 ずっと両手は静かに置かれた ままだった。知的で鋭く見通 すようで生き生きとした視

線。それが全てを物語ってい た。

2004/04/22

ハビエル・エチェバリーア神父との インタビュー

「エポカ誌」ピラール・ウルパノ、 1994年5月

た視線。それが全てを物語ってい た。

Q1. 神父様についてはほとんど何 も知りません。どこで、どのような 家庭にお生まれになったのですか?

A. 1932年6月14日、マドリッドの フォルトゥニー通りで生まれまし た。父はマドリッド大学工学部の教 授をしていました。兄弟の中で誰も 工学部に進んだ者がいなかったの で、父は、私がその道へ進んでくれ たらと考えていたようです。私が工 学部に入る準備をするために、一冊 の本を書いたぐらいです。しかしな がら私は文系の方が好きでした。父 は私が数学を勉強するのを手伝って くれました。そして、どんな問題で あっても、いつも三つか四つの解決 法を示してくれましたが、そのこと が私に数学に対する嫌悪感を持たせ ました。それで、法学部を選んだの です。

Q2. 弁護士を目指しておられたのですか?

A. いいえ。私は、祖父のように株の売買をしたかったのです。金を稼いで、良い暮らしをしようと考えていました。その後、神様が私の人生に入ってこられ、計画を変更しました。ここローマのアンジェリクム大学で教会法修士課程、ラテラノ大学で法律の博士課程を終えました。

## Q3. ご兄弟は何人ですか?

A. 十一人になれたのですが、生まれたのは八人だけです。現在、私は生きている七人の中で末っ子です。だから、甥や姪の五十人近い子供たちがいます。自分の孫のようなものです。私の家族は元々ギブスクワ出身でしたが、私の祖父母の時代からマドリッドに住んでいます。

Q4. スペイン内乱について何か覚 えておられますか? A. 内乱中は、エリソンドとサン・ セバスチャンにいました。マドリッ ドのアパートの門番が私たちのこと を密告したと聞いて、そこへ逃げた わけです。当然、エスパニョレト通 りのそのアパートにはすぐに捜索の 手が伸びました。そのころ、私はま だ幼かったので、いくつかの断片的 な思い出しかありません。例えば、 家族が戦争の状況を把握するために ラジオを聞いている様子などです。 また、相手側に対し怒りや憎しみな ど少しもなかったことを覚えていま す。私の両親が望んでいたことは、 ただ共産主義者たちによる迫害が一 日も早く終わることだけでした。

内乱中は、マリア会の学校に通っていました。マドリッドに戻ってからは、ガルシア・デ・パレデス通りにあるマリスト会の学校に行きました。そこは、エスクリバー神父がオプス・デイを『見た』場所のすぐ側でした。しばらく後、その学校は、

あの「ザリガニ」電車が通るシスネ 大通りと呼ばれていたエドゥアル ド・ダト通りに移転しました。

偶然、私が小さい頃に住んでいた同 じアパートにオプス・デイの一つの センターがありました。マルティネ ス・カンポス通り15番です。そこか ら別の場所に引っ越したときのこと をよく覚えています。1940年か1941 年のことだったでしょう。門番のお じさんは、次のように説明してくれ ました。「あそこは何かの事務所 で、何人かの人も住んでいるん だ」。きっと何か他にも知っていた でしょうが、それしか言いませんで した。不思議なことに、それが私の 記憶に残っています。ずっと後に なって聞いたことですが、創立者は その家を頻繁に訪れ、エレベーター に乗る代わりに階段を使って上り下 りしていたそうです。ひょっととす ると何度か創立者と階段ですれ違っ たのではないか…、そして私の守護

の天使に召し出しのことを祈ったのではないか…と思いました。誰かが側を通るときによくそうしておられましたから。

Q5. どのようにオブス・デイを知られたのですか?

A. 私の一人のいとこがオプス・デ イのメンバーでしたが、彼に尋ねよ うとは一度も思いませんでした。 1944年、「カトリシスモ」誌に、司 祭に叙階されるオプス・デイの最初 の三人(工学部出身) についての記事 が出ました。私の友人の一人が1948 年に偶然その雑誌を目に留め、6、7 人の友達に見せました。それはとて も目新しいことで、私の友人たちは 本当に興味をそそられました。しか しながら、正直に言って、私はそう でもありませんでした。ある日曜 日、6月6日、映画を見に行く予定 でしたが、一人が私に電話をして計 画の変更を提案しました。「ディエ

ゴ・テ・レオン通りのオプス・デイ の寮まで、オプス・デイとは一体何 なのかを探りに行かないか?」そし て、我々6人で行ったわけです。非 常に暖かく迎えてくれました。六人 のグループではなく、各自に一人の メンバーが付いてくれ、知りたいこ とをなんでも尋ねることができまし た。そこから出るとき、私のポケッ トには、当時列福調査が始まったば かりのイシドロ・ソルサノの出来た ての祈りのカードが入っていまし た。イシドロは、オプス・デイのメ ンバーでエンジニアでした。そし て、まねることが可能で魅力的な 「信徒の聖人」に思えました。

それは、父が亡くなる前の日の午後 のことでした。夏の休暇をサン・セ バスチャンで過ごす準備をしていた とき、父は心臓発作に襲われまし た。私たちがその知らせにあまり ショックを受けないようにと、まず 父が重体だと知らされたため、も

らったイシドロのカードを父のため に祈ったのを覚えています。その夏 はマドリッドに残りました。それま で一度もそうしたことはありません でした。そのことは、私がオプス・ デイのセンターに頻繁に行くきっか けになりました。また、偶然です が、エチェバリーア家が新たに引っ 越した同じ通り(エスパニョレト通 り) にオプス・デイのセンターが あったのです。その青年向けセン ターは「エスパニョレト」呼はれて いました。そこに行くたびに、何か の用事を頼まれました。ペンキを塗 り直すために古い椅子にサンドペー パーをかけたり、家の飾り付けに手 を貸したり、修理の手伝いをした り、というようなことです。自分が 他の人のために役に立つこと、その ように扱ってもらえるということ が、とても気に入りました。そして 1948年の9月8日にオプス・デイに入 る許可を願い出ました。十六歳の時 でした。

Q6. 何があなたを引きつけたので しょうか?

A. 喜びにあふれた雰囲気です。よく勉強し、よく働き、みんなとでえるというになりない。また、身分を変自分の職業におして、おいるというにあるというになるというになるというに、私は小さいできるというに、私は小の良いでました。それに、私は小の良いでました。それに、なるといるが大好きで、たくさんのが大好きで、たくさいるのが大好きで、たらです。

Q7. オプス・デイ創立者との出会 いはどうでしたか?

A. パドレは1946年からローマに住んでおられましたが、度々スペインに来られました。1948年の11月、スペインに来られたとき、「ディエゴ・デ・レオン」での団欒に呼ばれました。オプス・デイにおけるパドレとの親子関係は、召し出しの根本

をなす特徴です。誰に言い含められ たのでもなく、私はパドレを知りた いと熱望していました。その団欒に は35人ほどがいたのですが、パド レは手紙を書いたばかりの私たち三 人を呼んで、その日の午後にセゴビ アにある黙想会の家『モリノビエ ホ』まで行かないか、と誘って下さ いました。

古い車に6人で乗り込み、パドレは 後ろの席に座られました。私は前の 席に、もう一人と席を分け合いなが ら座っていました。オドン・モレス が運転しました。目的地まで、話 し、歌い、笑い、祈りました。パド レは私たちに、世界中でやるべき、 そして私たちを待っている数え切れ ないほどのオプス・デイの使徒職に ついて話されました。また、その少 し震えて抑揚のあるバリトンの声 で、愛についてのふつうの歌を、神 様のために向けながら歌って下さい ました。「♪ 私を喜びで満たしてく れる一つの愛を持っている… | 冗談 もよく言われました。カーブを曲 がって、遠くに古いおんぼろの家が 見えると、「ほら、あれがモリノビ エホだ!」と言うのでした。それに何 度か引っかかり、がっかりしまし た。ああ、そういえば、私は車酔い で、吐いてしまいました。しかも父 の喪中で喪服を着ていたので、それ を汚してしまいました。パドレは汚 れをきれいにするのを手伝ってくだ さり、気にしないようにと慰めて下 さり、11月というのに窓を開けて 旅を続けるようにして下さいまし た。これほどいっぱいの愛情を注が れ、よく面倒をみてもらったので、 ただの「パドレ(父)」ではなく、 「パドラッソ(すごくやさしい父)| だと感じました。

「モリノビエホ」ではエルミタ(聖母 庵)と聖堂を見て回りました。数人の 大学生が、芸大の学生の指導を受け ながら、装飾をしていました。聖堂

Q8. ドン・アルバロ・デル・ポル ティーリョとは、どこで知り合われ たのですか?

A. 翌年の1949年、私はオプス・ディの学生寮「グルトゥバイ」に住んでいました。ある朝、背が高くローマ風にラテン語を発音する司祭が私たちのためにごミサをたてて下さいました。私は外国人だと思いまし

た。それがドン・アルバロたったの です。彼はすでにローマに住んでい ましたが、マドリッドに立ち寄った のです。朝食が終わるとすぐに皆大 学に行きましたが、昼食の後、団欒 がありました。その時のことで二つ のことを覚えています。ひとつは、 教会と、たとえ誰であれ教皇様への 忠実と愛について話されたこと。も うひとつは、彼がバチカンでもらっ たというチェスターフィールド(たば この銘柄)を一箱くださったことで す。そのころのスペインは戦後の品 物が不足していた時代でした。安く てひどい刻みの黒たばこになれてい る者にとっては、アメリカ製のたば こを吸えるというのは映画に出るよ うな贅沢たったのです。そのうえ、 バチカンから頂いたものだから、 もっと特別な気がしたわけです。

Q9. あなたが聖ホセマリア・エス クリバーを思い出すとき、どんな考 え、どんな体験が出てきますか? A. 現実的で素晴らしいイエス・キ リストへの愛情と、父性とが浮かん できます。私は26年間彼の傍らで 過ごすという幸運に恵まれました。 そして、たとえ一度も見たことがな いメンバーであっても、一人ひとり に対する師の誠実な愛情にいつも驚 かされました。自分の霊的な娘や息 子に起こったこと、手紙に書かれて あったこと、団欒で語られたことな ど全てに興味を持ち、まるで我がこ とのように感じておられました。な ぜなら、私たちをご自分の祈りと犠 牪の子供として、本当に愛しておら れたからです。たとえ誰であれ、彼 との間には、どんなささいな障害物 もありませんでした。直接会ったこ とがない娘や息子の死に際しても、 肉親以上の深い気持ちをもって、涙 を流し、苦しまれるのを目撃しまし た。そういう知らせを伝えたとき は、頭を垂れ、人間的にはすっかり 意気消沈しておられました。

Q10. 眼を閉じると、どのような姿が浮かびますか?

Q11. あなたが 4 4 年間ともに過ご されたドン・アルバロについてはど のような姿が頭に浮かびますか?

A. いつも自分を消し去り、創立者 のパドレを見て、聞いて、世話でき る場所に隠れておられる姿が浮かび ます。師から学びたいという望みを 持って創立者を見ている姿です。し かも、周りの人たちを引きつけて離 さないだけの素晴らしい人間的な才 能を持っておられたにもかかわらず です。ドン・アルバロは輝くばかり の知性と、幅広い教養と、優雅な振 る舞いと、社交性と高いレベルの思 考カと、内的生活の深さと、英雄的 に実践し続けた様々な徳ゆえに、へ つらいではなく正義から、彼は偉大 な人物であったと言わざるをえませ ん。そして、大げさに言っているの ではないのです。それだけの人物で ありながら、いつも創立者のそばに 控え、オプス・デイを実現するため に自分のことは全て後回しにしてい た姿を見てきました。彼は創立者が 指示したことの忠実な実行者だった と言えます。

Q12. 聖エスクリバーがあなたに特に目をかけていたというのは本当ですか?

A. 私に?いや、いや、それはない です。だぶん、彼の側にいた別の人 たちにもっと信頼を置いておられた かもしれません。しかしながら、特 にひいきした子供というのは一人も いませんでした。もしいたとするな らば、それはドン・アルバロだった でしょう。なぜなら彼は教会とオプ ス・デイにとって非常に価値のある 道具だったからです。そして創立者 がよく次のように言っておられたこ とを思い出さなくてはなりません。 |私がドン・アルバロ選んだのでは ないよ。神様が彼を私のそばに置か れたのです。

私自身は創立者からとても愛されていると感じていました。しかしていました。度々、とても要求されました。ある時、ならまで言われました。「もし変わるとができないなら、もうおよとできないなら、はでさないよ」とでものう言葉を聞くことはとてもつら

いことでしたが、パドレはそうおっ しゃるだけの理由を持っておられま したし、私自身にも大変役に立ちま した。こういったことがあったにも かかわらず、数年後に私を秘書に任 命され、次のように言われました。 「どの引き出しを開けてもかまわな いよ。おまえに対して何の秘密も持 つこともないからね | 。それは聖工 スクリバー神父の意見が変わったか らではなく、私を信頼しなかったこ とが実は一度もなかったということ なのです。しかしながら、私はあく まで皆の中の一人にすぎませんでし た。実際そうなのです。

Q13. 聖エスクリバーがあなたを ローマに呼ばれたのですか?

A. いいえ、私がそう望んだのです。1950年、私はここローマで数週間の研修コースをしていました。そのときパドレが、その年にスペインから7名のメンバーが聖十字架ロー

マンカレッジにやってくるとが「私です。そこで私が「私です。そこで私が「名の中に入りさまるの中に入りさまないで「おしていると、口とはすいないなら」と話しておいないがらはないからはないからはないからはないがらはではでいるとででは、そこにいるわけでは、そこにいるわけです。

Q14. なぜ、聖エスクリバーはあなたを「保護者」に選はれたのですか?

A. さあ、分かりません。一度も尋ねたことがないのです。1955年に私は司祭に叙階されました。

1956年、スイスのアインシュテルンの粗末なファウェルホテルで行われたオプス・デイの全体会議の後、パドレが私にこう言われました。「ハビエル、会議が選んだ9人の中から

二人の保護者「クストデス」を選ば なければならない。一人はドン・ア ルバロでもう一人をおまえにしたい んだが、なってくれますか? | その 時、私は24歳でした。そして、私 以外にもっと長い時間オプス・デイ にいる人たち、つまりもっと経験が あり価値もあり、そして私よりも もっとその役目をうまく果たすこと ができる人たちがいることを考えま した。しかし、私は神様の恩寵とパ ドレの判断とに信頼を置くことにし ました。役目をお受けしますと答え るとパドレはすぐに「それでは規約 書をとって、あなたの役目を完全に 果たすことができるように勉強しな さい」と言われました。

Q15. 「保護者」というのは、どういう役目なのですか?

A. 私に任されたのはパドレについての全ての物質的な面です。つまり 靴を買い換えなくてはいけないとい うことから、医者に付き添ったり、 旅行の準備をしたり、といったことがまで全てです。また、説諭っとはあるいではなが、外面のかり言をはといるいは他の助言をはいて何かの助言をはいているようになが、でしたが、でしたが、ではないでは私がはないではながでした。 ということですりた。 ませんが、外面のかり言をは、とりくるというにないでしたが、あるいでは私があいたが、ティクではながないではないではないではない。 ことでは霊的指導をするということではいるということではないた。

Q16. パドレと二人の「保護者」の 三人は、空白を作らない継続を意味 するのでしょうか。つまり、一人が 亡くなれば、二人が残り、もう一人 が加わる穴を埋めるという具合に…

A. いや、それが「保護者」の役割ではありません。属人区長、つまりパドレが一番上で孤独を感じることがないように助けることが、その役目です。また、もっと良い指導者になるよう助けるためでもあります。

あなたの言う、その継続というのは、ドン・アルバロと私が「保護者」になってから始まったことです。それまではドン・アルバロだけが変わらず、もう一人の「保護者」は交代していました。

Q17. ドン・アルバロがいわゆる 「お人好し」であったと思われます か?

A. とんでもない!ドン・アルバロは素晴らしい人物、聖人でしたのというを聞いたのは自分をはない。同時にしたのはないましたのはないました。これを強さからはないがらいまれることに「でっとはないがらばないがらいないがらいるのを目にしました。

今から40年前、私はローマンカ レッジの会計係をしていました。600リラ足が合わず、600リラ足がありました。600リラマ ないことがありました。600リラす。 ないだ約60ペセタ(50円程度)ですに はたるとの人間が住む家のないに もっては、「心配いらないよ」となっていました。 でしてもらえると思っていました。 同じてはないければいけません。 でしていました。 していけなければいけませんがあるとのではない の一円まではった。

の一円まではっきりさせるのがあな たの義務ですから。そのお金はあな たのものではなく、皆の代わりにそ れを預かっているだけなのですか ら。」

あるいは、最近のことなら、彼が属 人区長で私が総代理のとき、次のよ うに言われました。

「私たちは人から見られるためにいろいろなことをするのではありません。しかし、私たちのことを皆が見

ています。だから、いつも神の現存 の下に行動する必要があります。私 たちの小さな振る舞いや言葉、 ちょっとしたことが、他の人たちの つまずきになることもあれば、他の 人たちを神様に近づけることにもな ります。」

Q18. 二人の聖人がパー(棒高飛びの横棒)をあまりにも高いところに上げてしまったので、これからの後継者にとっては、大変だと思うのですが…

A. 確かにとても高いところまで ハーを上げてしまったかもしれませ んが、同時にとても丈夫なポール(棒 高跳びの棒)を残して下さいました。 まず、二人が天国から助けてくれる でしょう。また、明確な模範を残し てくださいました。創立者ならどっ するだろうか。あるいはドン・アル バロならどうするだろうかと考え、 それに従うだけで、取るべき方向を 誤ることはないでしよう。

Q19. しかし、そのような模範の継続というのは、後任の属人区長が前任者の「コピー」になってしまうという危険をはらんでいるのではないでしょうか?

A. それは違います。ドン・アルバ 口はオプス・デイの精神についてだ け聖ホセマリアを踏襲しましたが、 二人の人格は全く別でした。だから こそあれほど素晴らしい組み合わせ になっていたのかもしれません。神 学や歴史、文学、哲学、芸術、法学 などの分野において、二人とも優れ た有識者で、その間には意見の一致 や意思の疎通がありました。ところ で創立者のパドレは大変直感的で、 すぐに行動を起こす方でした。それ に対して、ドン・アルバロは、もっ と内省的でした。創立者は何かが起 こるとすぐにそれに反応され、非常

に率直に見えました。ドン・アルバロも機知に富んだ率直な反応をされましたが、それを心の中で十分に練ってから外に表されていました。

1958年、教皇ピオ十二世が亡くなる とき、イタリアのテレビが教皇の病 気の見苦しい臨終の姿を映像で流し たときのことを思い出します。後に イタリアの医学学会は、教皇の部屋 でのその映像を撮ることを許可した 医者を除名したほどです。聖エスク リバーはそのテレビ映像にショック を受け、父親をひどく扱われた子供 のように心を痛めました。ドン・ア ルバロは黙っていました。ただ後に なってから、次のように言われまし た。「パドレのとられた態度は当然 だろう。あれはとてもひどいこと だったから…。自分の父親や母親が 臨終の苦しみにある姿を見せ物にす ることに同意するような息子がどこ にいるだろうか | と。

他にもあります。例えは「真実さ」 についてです。聖ホセマリアは、誠 実で直接的であり、頭に浮かんだこ とをはっきりとそのまま言われる方 でした。ドン・アルバロは、もっと 穏やかな気質で、裏表や込み入った ところのない、全く透明な方でした。

Q20.「しかし、好みや趣味などでは、二人は全然異なっていたのではないですか」

「もちろんそうです。例えはエスクリバー師は散歩が唯一の彼のスポーツでした。それに比べて、デル・ホルティーリョ師は、水泳やホッケー、クロスカントリー、テニス、乗馬、サッカーなどのスポーツをよくなさった方でした。

二人の違いはもっと小さなことにおいてさらに明らかでした。例えば、ドン・アルバロはクレルシマン(背広型の司祭服)を喜んで身につけられま

したが、創立者はそれを好んで着た ことは'度もありませんでした。ま た、1968年にイタリアのナポリから スペインのカディスに船で旅行した ときのことを覚えています。創立者 のパドレにとって、何日問も船の中 で過こすのは全く楽しいことではあ りませんでした。「船という狭い空 間に閉じこめられて過ごすなんて、 時間の無駄のように思えるよしと言 われていました。しかしながら、ド ン・アルバロはその旅行を非常に楽 しみにしておられました。 |海の真 ん中にいると、とても.気持ちが休ま るんだ | と言っておられました。で すから、二人はとても異なっていた と言えます。しかしながら、二人は 同じ道を歩み、同じ精神を生き、そ して、よく似た二人の聖人なので すし

Q21. つまり、後継者は自分のスタイルを保ちつつ、二人の先駆者が歩

いた足跡をたどるべきであるとおっ しゃるわけですね?

Q22. 新しい属人区長は、どのような創造的、刷新的な自由を持つことができるのでしょうか?

A. 完全な自由です。オプス・デイに「刷新」は必要ありません。私たちは世間のまっただ中に生きていて、いつも今日的だからです。した

がって、新しい属人区長は必要とされる創造力を発揮して時代の状況を利用し、社会にオプス・ディのの制力を活用させるためにあらずでしょう。 おいませんのまましたのまませんのまませんの現実は、創立者が生きですませんが生きでする。 関連なるが生きである。 人区長は、行いません。 対峙しなければなりません。

Q23. もし、次の教皇様がヨハネ・パウロニ世のように好意的でないなら、オプス・デイはこれまでのように安心していられないでしょう?

A. 聖エスクリバーが、教皇様たちから見捨てられているとか、軽視されているとか、好意を持たれていないなどと感じたことは、私の知っている限り一度もありませんでした。そういうことは、誰かが思いついて他の人たちが繰り返している嘘にす

ぎません。私は創立者が「たとえ時 には困難なことに思えても、聖座と 教皇様とからは良いことしかやって 来ません」とおっしゃるのを何度も 聞きました。私たちにとって教皇様 というのは、誰であっても、神様の 前に果たすべき責任を持たれたキリ ストの代理者です。だから、教皇様 が決定されることは、キリストから 来るものとして受け取ります。例え ば、教皇様の何かの決定が私たちに とって悲しいことや理解できないこ とであったとしても、それは私たち にとって実は良いことなのです。そ ういうわけですから、オプス・デイ は決して不安になったりしません。 教皇様が私たちに好感を持たれるこ とと、我々が教皇様を敬慕すること は別です。教皇様への愛情と敬慕の 気持ちは決して欠けることがないで しょう。

最後の五人の教皇様と、オプス・ディの二人のパドレとの個人的な親交

についての本はまだ存在していませ ん。かつて、パウロ六世教皇は聖エ スクリバーを評価していなかったと 噂されたことがありました。しか し、実際は、教皇様の秘書たちに よって認められたことですが、パウ 口六世は『道』を祈りの本として常 用していたのです。また、それ以上 のこともありました。パウロ六世の 晩年、会見の中で教皇機は創立者に おっしゃいました。「神父様、あな たは聖人だ。」もちろん、お世辞で 言ったのではありません。そして、 ヨハネ・パウロニ世とデル・ポル ティーリョ師との間の自然で信頼ん にあふれた率直な友情については言 うまでもないでしょう。教皇様は、 そうあって欲しいということを言う のではなく、現実をはっきりと自分 に言ってくれる忠実で誠実な息子と してドン・アルバロを見ておられま した。

Q24. ヨハネ・パウロニ世はオプス・デイを頼りにしていたと言えますか?

A. そう言うことができるでしょう が、言われているほどではありませ ん。大切なのは今の教皇様や、これ から来られる教皇様たちが、頼りに してくださるようなオプス・デイで なければならないということです。 オプス・デイはそのために存在して いるのですから。つまり、教会が仕 えて欲しい方法で仕えるということ です。私たちにとって、たとえ世界 中に広がってたくさんの召し出しを 獲得したとしても、もしそれが教会 によく仕えることになっていないと すれば、全く意味がありません。

Q25. オプス・デイ属人区長は司教 である必要がありますか?

A. 必要ではありません。しかしながら、経験から言うなら、オプス・デイのため、また他の司教様たちと

の関係のためにも、とてもいいことだと言えます。

Q26. エチェバリーア神父様、あなたは44年の間、常に誰かのために生きてこられました。「ご自分の」人生を持たれたことはないのですか。あなたは、あなたとして存在することができたのでしょうか?

A. もちろん自分の人生を持つこと ができました。私自身、自分がこれ ほど素晴らしい人生を送るとは、夢 にも見ませんでした。自分勝手に生 きたとすれは、もっと狭い視野しか 持てなかったでしょう。毎日毎日、 あれほどの人間的、霊的な高さを持 つ二人の人物の側にいるのでなけれ ば、世界中と通じ合い、人類全体の ことを心にかけるなど、望みもしな かったことでしょう。世界中の文化 に興味を持つこともなかったでしょ う。人々に奉仕するという望みもな かったでしょう。教会と社会という

広い視野を持つこともなかったで しょう。また、世界中の人々の置か れている状況や労働環境を、興味本 位ではなく、人間としての自由や尊 厳を心にかけて見ることもなかった でしょう。全ての国、全ての社会分 野にいる、あらゆる宗教の人々が生 活している場所にまで出かけて行 く、現代に生きるキリストの弟子と して、また一人の司祭として、私は うらやまれるほど様々な望みを実現 できました。二人の霊的、キリスト 教的大人物と過ごせたおかげで、世 界規模の心を持つことができまし た。

Q27. 数年前、説教中に心臓発作を 起こされましたね?

A. ええ、スペイン北部のアストゥリアスでした。

Q. そして、説教を最後までやり終えた…?

A. そうです。でも、(笑いながら)心臓発作だと分からなかったからですよ。

Q. では、説教を途中で放り出して しまう弱虫な人がいたとしても、彼 を理解されますか?

A. 理解するだけでなく、その人を 誉めます。そうしなくてはなりませ ん。仕え続けるために、早く治すべ きですからね!

Q28. もう、あなたについて人物評が広まっているそうですね。厳しく、口うるさく、非情で、聖エスクリバーの懐で育てられた人物だと…?

A. 私は聖エスクリバーの側で「育てられた」ことに大きな誇りを持っています。もっと学びたいぐらいです。私にいつも教えて下さったのは、司祭としてもっと広い心になることです。敵がどこから来ようが、

どのようにやって来ようが、たとえ 自分に死をもたらすほどの敵であっ ても、両手を広げて全ての人を受け 入れること。いつでも、どこでも、 どんな状況でも、自分を必要とする 人のために心を大きく広げていなさ い、と教わりました。

Q29. でも神父様、あなたは強い性格をお持ちでしょう?

A. それはそうです。聖エスクリ バーと知り合う前から持っていまし たから…。

Q30. 聖エスクリバーが亡くなったとき、デル・ポルティーリョ師は、「新しいパドレが選ばれるまで」と言って、まだ温かい遺体の胸にかけてあった聖十字架の遺物をはずして、自分の胸にかけられました。ドン・アルバロが亡くなったとき、あなたがその遺物を身に付けられたのですか?

A. ええ。でも、すぐにではなく、 二日後です。跡継ぎについての憶測 をさけるために、ドン・アルバロが なさったのと同じ行動をとることを 避けたかったのです。ドン・アルバ ロのタンスの中に聖十字架の遺物を 見つけたとき、司祭の胸にかけられ ていた方がよいと思いました。それ で、私の胸にかけました。

Q31. その時、オプス・デイの「重み」を感じられましたか?

A. オプス・デイの重みを感じましたが、同時に神様の力も感じました。オプス・テイは、好むと好までるとにかかわらず、霊的に一枚のです。私が誤らないように大力のです。私が誤らないように、世界のあらゆる場所のあらゆる人たいます。何百通という手紙が届いています。

Q32. オプス・デイの「重み」とは 何でしょうか?

A. それは、自分の仕事と、身分上の義務と、周りの人たちとの付きとの付きを通して、神様との約束に応入して、おびまり、それです。それです。それであることができます。なば最高によりできませばることができなけることがありたがありるからです。

Q33. ある機会に、ヨハネ・パウロ ニ世はオプス・デイを評して、「オ プス・デイは強大だ!」とおっしゃ いましたね?

A. その通りですが、その言葉に対してドン・アルバロはすぐにこう答えました。「教皇様、私たちの唯一の力、たった一つの武器は祈りです」と。そして教皇様はうなずきな

がら、「私もその意味で言ったのです」とおっしゃいました。ヨハネ1978年にデル・ポルティーリョ師がメン年にデル・ポルティーリョ師がメントレッラの巡礼地から書かれた手紙に強い印象を受けておられました。次のことが書いてありました。オの全ての宝、時で60.000ほど。現在は74.000あまりでしょう。

Q34. 聖エスクリバーとデル・ポルティーリョ師というオプス・デイの二保護者が眠るここビラ・テベレの地下に降りられるとき、ご自身のために何を祈られるのですか?

A. 良き牧者であること。忠実で、全ての息子と娘のために自分を捧げ、子供たちとほんのわずかも離れることがないように、と祈ります。(完)

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/opusudeinozhong-mitoshen-yang-noli-2/(2025/10/30)